

小笠原村教育委員会教育長
桐川 勲 様

小笠原村立小笠原中学校長
小野 満 賢 公印

令和3年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標

[教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

[学校経営方針における教育活動の重点目標]

コミュニケーション能力の育成～自信をもって自分の意見を言える生徒を育てる

(1) 確かな学力

- ①生徒による授業評価の結果や学力調査の結果を分析し、積極的に授業改善を行う。また、「学力向上全体計画」に基づき、学力向上への取組・主体的・対話的で深い学びの充実に向け、教育活動の充実を図る。
- ②年間指導計画、評価計画に基づいて計画的に授業を実施するとともに、週ごとの指導計画による授業時数の実績管理や学習状況の把握に努める。
- ③全ての教科においてユニバーサルデザイン化を推進するとともに、生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導形態や、学年を越えて立ち戻る指導・補充学習等を行い、個別最適な学びの充実を図る。
- ④情報端末や通信ネットワーク等の教育機器を効果的に利用し、学習活動の充実を図る。
- ⑤各教科の特性を生かして課題解決力を高め、多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力を育成する。また、社会や世界に対する興味や関心を深め、自ら立てた課題を主体的に追究する態度や、情報収集力・活用力・プレゼンテーション能力等を育成する。

(2) 豊かな心

- ①考え、議論する道徳を通して、自他の違いを認め、尊重する思いやりの心情を基盤に【チャレンジ精神、コミュニケーション能力、判断力・選択能力】を指導の重点とする。
- ②生命を尊重する心を醸成し、自他ともにかげがえのない存在であることを自覚させ、自尊感情・自己肯定感・自己有用感を育てる。
- ③日常の教育活動や多面的な面談を活用し、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努める。また、SC等と連携し、きめ細やかに組織的に対応する。
- ④小規模校の利点を生かし教員相互の情報交換や生徒との相談を密に行うとともに、関係機関と連携を図り、生徒一人一人の変容を捉える。また、生徒一人一人の人権を尊重し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。
- ⑤全校吹奏楽・生徒会活動・部活動等の縦割りの活動を充実させ、互いに高め合い、学び培ったものを将来に継承する意識を醸成する。

(3) 健やかな体

- ①村のガイドラインに基づく感染症対策を徹底し、保健体育授業や部活動を通して積極的に運動に親しみ、体力づくりに取り組む。
- ②体力テストの結果を分析し、課題の克服のために授業の工夫改善を行う。意欲を喚起し、教育環境を活かして運動の日常化を図り、自ら健やかな体づくりを進められるようにする。また、遠泳大会、小中高連合運動会、村のロードレース大会等に向けた取組を体力向上に有効に活用する。
- ③平和なより良い社会の構築を目指す態度の育成を図り、スポーツの魅力を学ぶとともに、オリンピック・パラリンピック開催の意義を見つめ、4×4の取組を意図的・計画的に取り入れ、オリンピック・パラリンピック教育を推進す

る。また、自己の最善を尽してスポーツをする態度を育てる。

- ④食や性に関する正しい知識等を身に付けるとともに、生徒が必要な情報を自ら収集し、適切な意志決定や行動選択を行い、健全な生活を送るための資質・能力を育成する。

(4) 信頼される学校づくり

- ①学校関係者評価・生徒アンケート等を活用して、積極的に速やかに学校改善を図り、保護者・地域そして生徒から信頼される学校づくりを進める。
- ②授業や行事を積極的に公開する。また、ホームページやフェイスブック、学校だより、安心安全メール等での広報活動や情報発信を積極的に行う。
- ③保護者会や三者面談を充実させ、生徒の変容を共有するとともに、地域・関係諸機関等と連携し、懇談や協議を通して教育活動の一層の充実を図る。
- ④地域の機関と連携を密にし、持続可能な社会づくりに向けて取り組む。調査及び知識習得活動（戦跡調査、海洋調査等）やボランティア活動（東平サンクチュアリでの外来種駆除、母島移動教室における海岸清掃等）を継続的に行い地域貢献の意識を高める。
- ⑤家庭や地域社会との連携を図り、三者が一体となった道徳教育を推進する。週休日や祝祭日に「道徳授業地区公開講座」を実施し、生徒の道徳的実践力の高まりを共有する。

2 学校関係者評価の概要

【保護者】（小笠原村立小笠原中学校 保護者アンケート集計結果 参照）

[実施状況]

- 令和3年12月に実施した。65家庭、回収率100.0%
- 「授業改善推進プラン」の作成が2学期に戻ったため、それに関する問いを1問追加し、一昨年までと同様、22項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年と同じにして実施した。
- 方法は生徒を通じて配布し封筒を使用して回収した。
- 学校だより1月号に一部掲載。3月保護者会で資料とともに示す予定。また、学校ホームページで公開する。

[保護者アンケート集計概要]

- 肯定的評価 80.0%以上 12項目 (前年比 -3)
80.0%未満 10項目 (前年比 +4)
- 肯定的評価が最も高い項目
- 設問 1 学校だよりや保護者会等を通じて、学校や学級の方針をわかりやすく伝えている。(96.9%)
- 2 学校だよりや学級だよりを通じて、学校や生徒の様子等、いろいろな情報を発信している。(96.9%)
- 肯定的評価が最も低い項目
- 設問 2 1 学校ホームページを活用している(見たことがある)。(52.3%)
- 肯定的評価が昨年度より5.0%以上上昇した項目 2
- 設問 1 0 英会話能力を高めるために、ネイティブイングリッシュティーチャーによる授業など、授業を工夫している。(92.3% +5.9%)
- 設問 1 1 総合的な学習の時間等で小笠原の特徴を生かし、地域と連携した活動が進められている。(89.3% +5.9%)
- 肯定的評価が昨年度より5.0%以上低下した項目 3
- 設問 5 教員は生徒が授業内容を理解できるよう、指導方法や教材研究、授業改善に取り組んでいる。(67.7% -18.7%)
- 設問 8 1年間の学習をまとめた学習ファイル(通知表、学習の手引き、定期考査計画結果等)は効果的である。(75.3% -12.6%)
- 設問 7 生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している。(67.7% -5.1%)

[分析]

- 【学校運営・経営方針(1~4)】全ての項目で肯定的評価が93.0%以上であり、平均は95.7%であった。今年度も教育課程はコロナ禍で予定通りに行かないことが多かったが、できるだけ中止にせず、延期したり、形態を工夫して実施したりすることができた。また、状況の変化を鑑み、早めに情報を保護者に伝えるとともに、学校の方向性をその都度丁寧に示したことで、保護者からも理解と協力をいただくことができた。また学校だより等を通して学校の方針や教育の姿勢を分かりやすく示したことが一定の評価に繋がったと考えられる。

- 【授業・学習（5～14）】10項目中5項目が前年度より低い評価となった。その要因として考えられるのは、全体に占める「E：答えられない、わからない」の回答の多さである。設問5「教員は、生徒が授業内容を理解できるよう、指導方法や教材研究等、授業改善に取り組んでいる」設問7「生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している」設問12「生徒の道徳性を高めるために、全教員で道徳授業に取り組むなど、授業を工夫している」設問13「授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている」で、約25%、すなわち4分の1の保護者が「E：答えられない、わからない」を選択しており、学力向上に向けての学校への期待はあるものの、学校でいったい何を行っているかがわからないという回答となっているのが事実である。保護者会や学校だより、学校フェイスブック等を通して保護者にはお伝えしているものの、ご理解いただくにはさらに工夫が必要である。「地域と連携した総合的な学習の時間」については地域人材を活用した授業の他に、オンラインで内地と繋いでの授業と、ハイブリッドに授業を行った。また「道徳授業」については、2年ぶりに道徳授業地区公開講座を実施し、参加された保護者・地域の方からは、本校の道徳についての取組に高い評価を得た。今年度もコロナ禍により、硫黄島訪島事業の中止や、母島移動教室や音楽発表会が3学期への延期したこともあり、アンケート実施の時期には保護者・地域の方を学校に招いて学習の成果を伝えることができなかつたことも原因の一つである。一方で、ネイティブイングリッシュティーチャーを活用しての英会話能力の向上については、英語科教員の工夫と努力により、英会話の授業だけではなく、通常の英語の授業にALTが入り、学習効果が高まったことで肯定的評価が6%近く上昇したと考えられる。
- 【生活指導（15～17）】設問16「防災や防犯、交通安全などの安全指導が、避難訓練などを通じて適切に行われている」設問17「生活指導上の諸問題（いじめ等を含む）に対して適切な指導が行われている」について昨年度より肯定的評価が3%ほど高くなった。本校の、アンテナを高くして生徒一人一人を見ることや、「未然防止」に力を入れ、生徒ひとりひとりを大切に、丁寧に指導する体制を評価していただいたものとする。しかし設問15「日頃から日常生活のマナーや社会のルールについての指導が行われている」については3%ほど低くなった。大きな乱れは無いものの、学校生活で見せる挨拶等の積極的な様子や、規範意識が、校外生活に反映しにくい傾向があるようである。身に付いたことを、いつでもどこでも発揮できる生徒を育てていく必要がある。
- 「生徒の自主性・主体性を養うために、学校行事や生徒会活動や部活動に学校は取り組んでいる」の項目は、肯定的評価が4.3%増加した。生徒が主体的に活動する部活動が今年度はほぼ平常通り行えたこと、昨年度は中止になった夏の大会が実施され、前哨戦である島嶼大会にサッカー部、バレー部、バドミントン部が参加できたことが影響している。村主催のロードレース大会は中止になったが、代替の12分間走を実施し、生徒の活躍の場を残し、頑張ってきたことを評価できたことも理解に繋がったと思われる。
- ホームページの利用率、Facebookの利用率はともに3.8%上昇した。それでも50%台であるので、さらに周知を進めるとともに、情報発信の工夫が必要である。
- 設問20「教職員は保護者に丁寧に対応し、いつでも相談できる雰囲気がある」の肯定的評価が昨年度より更に1.5%上昇し、95.4%となった。来校者には教職員から率先して笑顔で挨拶をし、迎え入れる、要望や意見があれば丁寧に聞き取り、可能な限り迅速に対応し、どう対応したかをフィードバックする、電話の対応はまず名前を名乗り、丁寧に取次ぐ等の全教職員の実践が実を結んでいるものと思われる。引き続き大事にしていきたい。

[次年度に向けて]

- 【学校運営・経営方針】今年度と同様に、小笠原中学校として「育てたい生徒像」を、保護者・地域とも共有できるように、経営方針をA3用紙1枚にまとめ、学校だよりや保護者会等で丁寧に説明していくとともに学校のホームページでいつでも見られるようにしておく。それを達成するための具体的な道筋を示し、保護者・地域の役割を明確にし、協力を求めていく。
- 【授業・学習】の「基礎・基本の定着」「主体的な学び」については、令和3年度に整えた「学力向上を図るための全体計画」に基づき、RPDCAサイクルを活用し、「個別最適な学び」を進めていく。授業力向上については組織的・計画的に研究授業を行い、互いの授業を見合い切磋琢磨し合うとともに、重点項目を設定し、島しょ研やオンラインでの講習などを利用して組織的・計画的に図っていく。令和3年度に大きく前進したGIGAスクール構想の下、ICT機器等を有効に活用し、学習の充実を図る。また、週に一度の英会話の授業については、ALTの活用をさらに充実させ、英語の授業にALTを配置するように小笠原小学校と時間割を調整をし、令和5年度には全ての英語授業に入るようにする。
- ホームページやFacebookからの配信については、引き続き内容を充実させるとともに、リアルタイムでアクセスしやすいレイアウトを工夫していく。年度当初に閲覧の登録をしていただくなどの広報活動を引き続き行っていく。
- 次年度においてもwithコロナの意識をもち、柔軟に教育活動を展開していく。予定通りにいかないことはあっても、教職員が一枚岩になり、教育課程の実施に向けて最善を尽くす姿勢を生徒及び保護者・地域にも示していく。

【生徒】「小笠原村学力調査」(5月10日実施)より 意識調査として全中学生で実施

生活行動(基本質問)について

【全国平均より肯定的評価が10.0%以上高いもの】

(1年)

- ・勉強にパソコンを利用している。(95.5% +60.3%)
- ・夜は、時刻を決めて寝ている。(77.3% +25.6%)
- ・地域の行事に参加している。(77.3% +22.6%)
- ・体育の授業のほかにも運動している。(95.5% +20.8%)
- ・自分で時間を決めて、テレビを見ている。(59.1% +18.3%)
- ・参考書や問題集などを使って、勉強している。(72.7% +17.4%)
- ・家の人と決めた約束やきまりを守っている。(100.0% +13.7%)
- ・朝は、時刻を決めて起きている。(95.5% +10.3%)

(2年)

- ・勉強にパソコンを利用している。(77.4% +45.1%)
- ・地域の行事に参加している。(77.4% +34.9%)
- ・家の手伝いをしている。(83.9% +16.9%)
- ・学校に出掛ける前に忘れ物がないか確かめている。(83.9% +12.2%)
- ・朝食は、家の人といっしょに食べている。(67.7% +13.8%)
- ・睡眠不足にならないようにしている。(77.4% +14.5%)

(3年)

- ・地域の行事に参加している。(72.2% +32.6%)
- ・家の手伝いをしている。(94.4% +28.0%)
- ・夜は、時刻を決めて寝ている。(66.7% +27.1%)
- ・参考書や問題集などを使って、勉強している。(88.9% +25.6%)
- ・勉強にパソコンを利用している。(50.0% +23.5%)
- ・通信添削を利用して、勉強している。(38.9% +22.5%)
- ・家の人と決めた約束やきまりを守っている。(100.0% +17.5%)
- ・自分で時間を決めて、テレビを見ている。(50.0% +14.0%)
- ・睡眠不足にならないようにしている。(72.2% +12.3%)
- ・家の人に、「行ってきます」「ただいま」などの挨拶をしている。(94.4% +11.1%)

【全国平均より肯定的評価が10%以上低いもの】

(1年)

- ・学習塾に行って勉強している。(0.0% -33.5%)
- ・出掛けるときは、家の人に行き先を言っている。(59.1% -25.5%)
- ・テレビのニュースを見ている。(59.1% -22.1%)
- ・新聞の記事を読んでいる。(9.1% -21.7%)
- ・朝食は家の人といっしょに食べている。(45.5% -18.3%)
- ・勉強に役立つテレビ番組(クイズ番組など)を見ている。(54.5% -17.5%)
- ・本(マンガや雑誌を含まない)を読んでいる。(50.0% -11.3%)

(2年)

- ・学習塾に行って勉強している。(16.1% -26.2%)
- ・出掛けるときは、家の人に行き先を言っている。(61.3% -19.8%)
- ・本(マンガや雑誌を含まない)を読んでいる。(48.4% -17.3%)
- ・新聞の記事を読んでいる。(9.7% -17.0%)
- ・勉強に図書館を利用している。(0.0% -11.6%)

(3年)

- ・学習塾に行き勉強している。(5.6% -37.1%)
- ・勉強するときは集中して勉強している。(55.6% -15.5%)
- ・勉強に役立つテレビ番組(クイズ番組など)を見ている。(50.0% -15.2%)
- ・新聞の記事を読んでいる。(11.1% -20.1%)

[状況]

- 体育の他にも地域のスポーツ団体に所属したり、仲間同士で集まって運動をしたり海や山に出掛けたりするなど、高い割合で運動をしている。
- 地域の行事に積極的に参加する生徒が多い。
- 家の人と決めた約束やきまりを守っている生徒の割合が高い。
- 家の手伝いをしている生徒が多い。
- パソコンやインターネットを活用して勉強している生徒が多い。
- 通信添削を使つての家庭学習スタイルが増加しつつある。
- 学習塾・家庭教師を利用できていない。
- 新聞を読む習慣がどの学年にも無い。
- 読書量についてはどの学年も総じて少ない。
- 学習に図書室を利用するケースが少ない。
- 家の人に行き先を告げずに出掛ける傾向がある。

[次年度に向けて]

- ・地域の中にある学校として、地域と連携し協力を仰ぎまた、地域に貢献しながら生徒を育てていく。
- ・小笠原の子どもたちの学習を支えるのは学校であることを再認識し、家庭の協力を仰ぎながら個々の学力の向上を図っていく。
- ・朝読書の充実と、図書館利用に向けた指導、読書に関連したビブリオバトル等の実践も視野に入れながら、読書活動を活発にしていく。また、新聞記事については新聞紙にこだわらず、ネットニュースから正しい情報を読み取るなどの指導を通し、活用させていく。
- ・小笠原中の「学力向上全体計画」に基づき、生徒が計画的に学習を進めるよう促すとともに、自身の学習スタイルを修正しながら確立させていく指導を行う。
- ・生活指導の年度当初のガイダンスにおいて、外出時には家の人に行き先と帰宅時間を伝えるように改めて指導していく。

生活行動(発展質問)について (太字斜体は全国より10%以上の差があるもの)

(1年)

		肯定的 とても+まあまあ	否定的 あんまり+まったく
学校が好きである	全国	85.3	14.4
	1年	72.7	27.3
自分が住んでいる地域が好きである	全国	85.5	14.2
	1年	95.5	4.5
自分のことが好きである	全国	53.1	46.4
	1年	63.6	38.4
自分にはいいところがあると思う	全国	63.8	35.8
	1年	63.6	36.4
自分は、友だちから認められていると思う	全国	66.8	32.7
	1年	81.8	18.2

自分は先生から認められていると思う	全国	58.9	40.6
	1年	59.1	40.9
自分は、家の人から認められていると思う	全国	76.4	23.0
	1年	86.3	13.6
自分の力をできる限り伸ばしたいと思う	全国	92.9	6.6
	1年	90.9	9.1
将来の夢や目標をもっている	全国	81.7	17.9
	1年	68.2	31.8

(2年)

		肯定的 とても+まあまあ	否定的 あんまり+まったく
学校が好きである	全国	79.9	19.9
	1年	67.7	29.0
自分が住んでいる地域が好きである	全国	81.6	18.0
	1年	87.3	12.9
自分のことが好きである	全国	44.8	54.8
	1年	87.1	12.9
自分にはいいところがあると思う	全国	56.6	43.0
	1年	77.4	22.6
自分は、友だちから認められていると思う	全国	61.6	37.9
	1年	77.4	19.4
自分は先生から認められていると思う	全国	53.0	46.6
	1年	58.0	35.5
自分は、家の人から認められていると思う	全国	68.5	30.9
	1年	77.5	19.4
自分の力をできる限り伸ばしたいと思う	全国	90.0	9.5
	1年	90.3	9.7
将来の夢や目標をもっている	全国	71.4	28.2
	1年	67.7	29.1

(3年)

		肯定的 とても+まあまあ	否定的 あんまり+まったく
学校が好きである	全国	77.9	21.9
	1年	72.2	27.8
自分が住んでいる地域が好きである	全国	77.0	22.7
	1年	77.8	16.7
自分のことが好きである	全国	39.6	60.2
	1年	55.6	44.4
自分にはいいところがあると思う	全国	51.2	48.5
	1年	50.0	50.0
自分は、友だちから認められていると思う	全国	58.0	41.6
	1年	66.6	33.4
自分は先生から認められていると思う	全国	49.7	49.9
	1年	66.7	33.3

自分は、家の人から認められていると思う	全国	64.8	34.7
	1年	66.7	27.8
自分の力をできる限り伸ばしたいと思う	全国	89.8	9.9
	1年	94.4	5.6
将来の夢や目標をもっている	全国	69.4	30.3
	1年	44.4	50.0

[分析]

- どの学年も「自分のことが好きである」が全国平均を上回っているが、特に2年生は自己肯定感が高く、自分のことが好きで、自分にはいいところがあると感じている生徒が全国平均を40%以上上回っている。
- 「自分は友だちから認められていると思う」と感じている生徒がどの学年も全国平均より多く、幼いころから一緒にいることもあり、信頼関係で結ばれている。
- 「自分は家の人から認められていると思う」は1年生のうちには全国平均を大きく上回っているが、学年が上がるにつれて徐々に少なくなっている。逆に「自分は先生から認められていると思う」は3年生になってから全国平均を上回っている。
- 自分の住んでいる地域についてはどの学年も好きと感じている。学年が上がるにつれて割合が低くなっているのは、興味関心が外に向き、物足りなさを感じている可能性がある。
- 学年が進むにつれて、自分の夢や目標が見えなくなっているが、自分の力をできる限り伸ばしたいという気持ちは強くなっている。
- 「学校が好きである」に否定的な生徒が、どの学年も3割程度存在する。

[次年度に向けて]

- 生徒一人一人を大切に、活躍の場を与え、褒めることを通して、成就感や達成感を味わわせ、自己肯定感を育む。
- キャリア教育に力を入れ、将来の自分の姿をイメージさせ、苦手なことにも向き合い、日々の学習を積み重ね、確実な学力と生きる力を付けて自信をもたせる。
- 学校は生徒にとって安全で安心できる場であり、努力によって力を伸ばせる場所であることを意識させる。生徒同士、生徒と教員とのコミュニケーションを大切にするとともに、恥ずかしがらずに自分の課題と向き合わせ、自分自身で克服する手助けをしていく。

(小笠原村立小笠原中学校 授業アンケート集計結果)

[実施状況]

○年2回実施

6月と11月に以下の授業アンケートを期末考査後、全校生徒にタブレットの集計システムを使って実施した。

1：あてはまる 2：だいたいあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：あてはまらない の4択

5教科：国・社・数・理・英

- 設問 1 授業を受けることが「楽しい」と感じる。
- 設問 2 教科書やノートなど、授業に必要なものの「忘れ物」をしていない。
- 設問 3 授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。
- 設問 4 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出できている。
- 設問 5 ノートやプリントへの記入をしっかりと行うことができている。
- 設問 6 予習・復習を行い、理解や上達に努めている。
- 設問 7 授業で、先生の「授業を進めるスピード」は良かったと思いませんか。
- 設問 8 授業で、先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうどよく分かりやすいと思いませんか。
- 設問 9 授業で、先生の「板書」は見やすいと思いませんか。
- 設問 10 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。
- 設問 11 授業で、評価の方法について、説明がされていませんか。

4教科：音・美・体・技・家

- 設問 1 授業を受けることが「楽しい」と感じる。
- 設問 2 教科書やノートなど、授業に必要なものの「忘れ物」をしていない。
- 設問 3 授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。
- 設問 4 「作品」や「提出物」を期限内にきちんと提出できている。
- 設問 5 演奏、運動、制作などの活動に積極的に参加できている。
- 設問 6 定期考査に向けた学習に取り組んだ。
- 設問 7 授業で、先生の「授業を進めるスピード」は良かったと思いませんか。
- 設問 8 授業で、先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうどよく分かりやすいと思いませんか。
- 設問 9 授業で、先生の「見本」や「お手本」は分かりやすいと思いませんか。
- 設問 10 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。
- 設問 11 授業で、評価の方法について、説明がされていませんか。

設問1～6について（生徒自身の取組の評価として）の肯定的評価の割合
（1年）

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	95.5	100.0	90.9	100.0	100.0	100.0	95.5	85.7	100.0	100.0	100.0	90.5
社	100.0	100.0	86.4	95.2	95.5	100.0	95.5	90.5	100.0	90.5	95.5	81.0
数	95.5	95.2	90.9	100.0	100.0	100.0	95.5	90.5	95.5	100.5	100.0	90.5
理	91.7	86.4	87.5	100.0	95.8	100.0	70.8	95.5	91.7	95.5	95.8	86.4
英	90.9	100.0	72.7	95.2	86.4	100.0	90.9	95.2	100.0	95.2	95.5	100.0
音	95.5	95.2	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0	90.5	90.9	90.5	86.4	85.7
美	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.9	90.5	95.5	95.2	90.9	95.2
体	100.0	85.7	95.5	95.2	100.0	100.0	100.0	95.2	95.5	90.5	100.0	90.5
技	100.0	100.0	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0	95.7	95.5	95.7	90.9	100.0
家	100.0	100.0	90.9	100.0	100.0	100.0	90.9	95.5	90.9	95.5	95.5	100.0

(2年)

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	93.3	96.4	96.7	92.9	100.0	96.4	96.7	89.3	90.0	96.4	86.7	71.4
社	93.8	100.0	96.9	100.0	100.0	100.0	93.8	96.3	93.8	100.0	87.5	85.2
数	90.6	100.0	100.0	100.0	96.9	96.3	87.5	96.3	87.5	100.0	87.5	96.3
理	96.8	100.0	90.3	100.0	100.0	100.0	71.0	96.3	87.1	96.3	74.2	92.6
英	93.1	100.0	89.7	96.4	100.0	92.9	79.3	75.0	89.7	85.7	79.3	89.3
音	93.5	96.3	96.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.5	100.0	87.1	85.2
美	93.5	96.3	87.1	100.0	96.8	96.3	90.3	85.2	96.8	100.0	90.3	92.6
体	100.0	100.0	93.8	100.0	100.0	96.4	96.9	100.0	96.9	100.0	90.6	92.9
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.2	100.0	100.0	73.3	96.2
家	93.3	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0	96.7	96.3	96.7	100.0	83.3	96.3

(3年)

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	94.4	88.2	100.0	94.1	100.0	100.0	88.9	88.2	94.4	100.0	77.8	88.2
社	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	82.4	83.3	82.4	83.3	82.4
数	100.0	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	100.0	88.9	88.2
理	94.4	94.4	94.4	100.0	100.0	100.0	77.8	94.4	88.9	100.0	83.3	77.8
英	100.0	94.1	94.4	100.0	100.0	100.0	94.4	88.2	100.0	88.2	100.0	76.5
音	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.1	100.0	100.0	94.4	94.1
美	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	88.2	100.0	100.0	72.2	100.0
体	100.0	100.0	94.4	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.1
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	77.8	100.0
家	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	88.9	100.0	100.0	88.9	94.4

[分析]

- ・授業規律が各学年ともしっかりと守れており、落ち着いて授業に臨んでいる。
- ・宿題や提出物・課題を期限内に提出できない生徒は、どの教科においても同じ傾向である。
- ・教科によって予習・復習の仕方が分からず、手を付けられない生徒が一定数いる。
- ・定期考査への取組は教科によってばらつきがあり、学年が上がるにつれてそれが顕著になっている。

[次年度に向けて]

- ・「小笠原中学校学力向上全体計画」に基づき、新年度にオリエンテーションをしっかりと行い、教科ごとの予習や復習の仕方をきちんと指導する。
- ・「GW学習記録プログラム」を有効に活用し、個々の学習習慣の見直し・改善を図る。
- ・定期考査前の学習計画の指導を通して、自身の学習計画を修正しながら自身の力でやり遂げられるように、自己マネジメント力の育成を図る。
- ・「学びに向かう力」の強化を図り、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。

設問7～11について（教科を指導する教員の評価として）肯定的評価の割合

(1年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
社	100.0	95.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
数	95.5	100.0	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0	95.2	100.0	90.5
理	95.8	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.5
英	90.9	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	95.5	100.0	100.0	95.2
音	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.2
美	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
体	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.5
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	91.3
家	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	96.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
社	90.6	92.6	100.0	100.0	96.9	88.9	96.9	100.0	100.0	100.0
数	100.0	96.3	100.0	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
理	90.3	100.0	100.0	100.0	96.8	100.0	93.5	100.0	100.0	100.0
英	82.8	92.9	100.0	92.9	100.0	92.9	96.6	92.9	100.0	100.0
音	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
美	96.8	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0
家	100.0	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0

(3年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
社	94.4	82.4	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
数	100.0	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
理	83.3	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
英	72.2	94.1	83.3	100.0	94.4	88.2	100.0	100.0	100.0	100.0
音	100.0	100.0	100.0	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
美	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0	94.4	100.0
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
家	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0

[分析]

- ・2年、3年において、英語・理科に関して進むスピードが速いと感じている生徒が複数人存在しているが、2学期には解消されている。
- ・板書・説明・見本の分かりやすさや、声の大きさはほぼ100%の生徒が高い評価をしている。
- ・授業の評価の方法については全教科で説明がされているが、1年生は受け取り方がまちまちである。

[次年度に向けて]

- 令和3年度から始まった3観点での評価の方法について、教員が研修等を通してさらに適正に行うよう努めるとともに、生徒や保護者に丁寧に説明する。
- 目的意識を明確にし、生徒の関心・意欲が高められるよう、生徒の実態を踏まえた授業改善を推進する。
- 生徒の学習意欲を高め、学びに向かう力を涵養し、さらに生徒の家庭での学習習慣を確立する。
- 小学校との教科の系統性を踏まえた年間指導計画を下に、より学習効果が高まるように工夫する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
<p>コミュニケーション能力の育成～自信をもって自分の意見を言える生徒を育てる</p>	<p>全ての教育活動で、左の重点目標が達成できるような工夫を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の保護者会で「学校経営方針」や「重点目標」を1枚にまとめて示すとともに、学校ホームページに掲載し保護者・地域に周知を図ったのは効果的だった。 ・全ての教育計画に先立つ横断的な取組としたため、教員が自身の指導を意識するようになった。 ・研究授業の指導案には「コミュニケーション能力の向上」のためのアプローチを記載する欄を付け、授業の改善を図ることができた。 ・総合発表会等では主体的に調べまとめた内容をプレゼンテーションソフトなどを使い発表する場面を全ての学年で行った。互いの発表を見合ういい機会となり、次の発表に向けた工夫改善につながった。また、生徒に感想を言わせる機会をもち、「自分の言葉で発表する」を意識させることができた。 ・各教科での授業において、話し合い活動を意図的・計画的に行い、コミュニケーション能力の育成を図った。 ・自分の意見を言うとともに相手の意見をしっかり聞くなどを意図的に行わせることで、双方向のコミュニケーション力を付けることができた。
<p>1 確かな学力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価の結果や学力調査の結果を分析し、積極的に授業改善を行う。また、「学力向上全体計画」に基づき、学力向上への取組・主体的・対話的で深い学びの充実に向け、教育活動の充実を図る。 ②年間指導計画、評価計画に基づいて計画的に授業を実施するとともに、週ごとの指導計画による授業時数の実績管理や学習状況の把握に務める。 ③全ての教科においてユニバーサルデザイン化を推進するとともに、生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導形態や、学年を越えて立ち戻る指導・補充学習等を行い、個別最適な学びの充実を図る。 ④情報端末や通信ネットワーク等の教育機器を効果的に利用し、学習活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から生徒の授業評価はタブレット端末で行うようになり、集計やグラフ化も簡単にできるようになった。1学期・2学期の結果をもとに3月までに授業改善推進プランを作成し、指導法の工夫改善を行った。昨年度末に質問内容を精査したが、今年度は以前のものを使用する手違いがあった。 ・「学力向上を図るための全体計画」を策定し、学校全体で取り組むことができた。「授業ユニバーサルデザイン」や「振り返り」については、継続して取り組んでいく必要があり、現段階での効果は不明である。 ・小学校との系統性を確認しつつ、各教科で年間指導計画を作成した。これをブラッシュアップしながらさらに効果的な学びにつなげていく必要がある。 ・タブレット端末の活用については、村教委の尽力で研修会も設定され、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間で必要に応じてスプレッドシート、ジャムボード、クラスルーム、フォームなどを活用し大きく前に進めることができた。アンケートの集計が一瞬でできるため、一部校務改善にもつながっている。 ・リモートによる会議が可能になったため、今年度大きな進化があった。英語の授業でマレーシアの学校との交流授業、総合的な学習の時間において、「働く人の話を聞く会」、特別活動における「情報モラ

<p>1 確かな学力</p>	<p>⑤各教科の特性を生かして課題解決力を高め、多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力を育成する。また、社会や世界に対する興味や関心を深め、自ら立てた課題を主体的に追究する態度や、情報収集力・活用力・プレゼンテーション能力等を育成する。</p>	<p>ル教室」「夢の教室」「落語体験教室」等をリモートで行った。また、例年2学期末に会場に集まって行われている「生徒会長サミット」がオンライン開催となったため、初めて参加することができ、生徒会の交流をおこなうことができた。</p> <p>・総合的な学習の時間の大きな柱となる1年母島移動教室は3月に延期、2年硫黄島訪島事業は中止、3年修学旅行は10月に延期となったが、それぞれの学びを発表する総合発表会は12月に3年生、1月に1・2年生が、保護者・地域の方を迎え、生徒も一堂に会して実施することができた。プレゼンテーションソフトを効果的に使い、それぞれが取り組んだ学びを発表し、共有するいい機会となった。</p> <p>3年生は「修学旅行」と「上級学校訪問」、1年生は「キャリア教育」と「母島学習」、2年生は「硫黄島に関連する平和学習」と「職場体験」について堂々と自分の言葉で発表することができた。</p>
<p>2 豊かな心</p>	<p>①考え、議論する道徳を通して、自他の違いを認め、尊重する思いやりの心情を基盤に【チャレンジ精神、コミュニケーション能力、判断力・選択能力】を指導の重点とする。</p> <p>②生命を尊重する心を醸成し、自他ともにかげがえのない存在であることを自覚させ、自尊感情・自己肯定感・自己有用感を育てる。</p> <p>③日常の教育活動や多面的な面談を活用し、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努める。また、SC等と連携し、きめ細やかに組織的に対応する。</p> <p>④小規模校の利点を生かし教員相互の情報交換や生徒との相談を密に行うとともに、関係機関と連携を図り、生徒一人一人の変容を捉える。また、生徒一人一人の人権を尊重し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。</p> <p>⑤全校吹奏楽・生徒会活動・部活動等の縦割りの活動を充実させ、互いに高め合い、学び培ったものを将来に継承する意識を醸成する。</p>	<p>・35回の道徳授業を学年教員が全員持ち回りで行った。また毎回の授業を各学年で検討し指導案を作成した。授業は学年の教員全員が参加し、生徒の変容を全員で見取っている。授業後は参観者から授業者へ助言を行うことで授業改善に努め、充実を図っている。また、道徳の授業を学年ごとに異なる時間で設定し、異学年の教員も参観できるようにした。</p> <p>・道徳授業地区公開講座を2月の祝日に設定し、多くの参観者においでいただいた。その後の意見交換会では、保護者・教員・代表生徒が参加し、本校の道徳の取組についてご理解いただくとともに、道徳授業の感想や、授業の前後での考え方の変化、道徳の授業の組み立て方や、評価の仕方などを共有することができた。</p> <p>・儀式的行事での講話や道徳授業、学校だよりをはじめとした各種通信等で生命尊重や自己肯定心の醸成につながる内容を機会を捉えて伝えた。10月の道徳の1時間を全学年「命の大切さ」をテーマに授業をし、その月の保護者会で「SOSの出し方に関する教育」の視聴覚教材を紹介し、思春期の子供の家庭での向き合い方について情報を共有した。</p> <p>・日常的に困った時にはどの教職員でもいいので相談することを推奨している。休み時間には生徒の傍に教員が必ずおり、生徒の変容に気付くようにしているとともに、いつでも相談を受ける姿勢を取ってきた。多くの変化のある新学期には、校長面接、保健面談、SC面談を組み、さまざまな角度から生徒の様子を把握した。また年3回の生活アンケートの後は担任が中心となり、生徒の悩みを丁寧に聞き取り、いじめの未然防止等に努めた。今年度もいじめ</p>

<p>2 豊かな心</p>		<p>の発生件数はゼロであった。生徒の様子については朝の打ち合わせや運営委員会、職員会議、生活指導部会、校内委員会で共有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で思うような活動ができなかったが、全校吹奏楽では先輩がパートリーダーを務め、後輩にやさしく教える姿が見られた。10月に予定されていた音楽発表会は3月に延期され、年間を通して練習してきた曲を披露することができた。 ・今年度は都大会につながる島嶼大会も実施され、学期中ではあったが、サッカー部とバドミントン部、女子バレー部を夏の遠征に参加させることができた。サッカー部は母島中学校との合同チームで島嶼大会に優勝し、都大会で2勝し、ベスト16入りとなった。バレー部は島嶼大会を2位で通過し、都大会に出場することができた。テニス部はコロナの再度のまん延のため、大会自体が中止になった。大会参加にあたっては部活動保護者会を数回開催し、理解と協力を得ることができた。 ・文化部・運動部ともに互いに切磋琢磨できる関係が築けている。 ・生徒会活動においては大きな刷新が2つあった。一つは委員会の活動報告をスプレッドシートで作成し、中央委員会への提出もデータで行っていること。また生徒会新聞はドキュメントを用いて作成するなどIT化が進んだこと。もう一つはオンライン会議システムを使って、内地の生徒会とつながり、互いの活動を紹介し合うなどの交流ができるようになったことである。今後の活動に広がりができる契機となった。
<p>3 健やかな体</p>	<p>①村のガイドラインに基づく感染症対策を徹底し、保健体育授業や部活動を通して積極的に運動に親しみ、体力づくりに取り組む。</p> <p>②体力テストの結果を分析し、課題の克服のために授業の工夫改善を行う。意欲を喚起し、教育環境を活かして運動の日常化を図り、自ら健やかな体づくりを進められるようにする。また、遠泳大会、小中高連合運動会、村のロードレース大会等に向けた取組を体力向上に有効に活用する。</p> <p>③平和なより良い社会の構築を目指す態度の育成を図り、スポーツの魅力を学ぶとともに、オリンピ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都や村からの感染症に関する通知は速やかに共有し、迅速に対応した。「学校だより」や「ほけんだより」等で家庭にも協力を呼びかけるとともに、朝礼等で感染予防や、拡げないための取組を粘り強く啓発した。また、「感染対策を講じた上で、できるだけ教育活動を止めない」という方針の下、段階的に制限を設け、一律に中止としないようにした。現段階でオミクロン株の感染者は学校関係者には出ていないため、マスクこそ外さないが通常に近い形で教育活動を行った。 ・体力テストでは、女子は全学年全項目が全国平均を上回っている。男子は「握力」が全国平均を下回っているため、体育授業の前の補助運動で、ハンドグリップを用いて握力を高める工夫をした。 ・遠泳大会(7/2)、小中高連合運動会(9/26)、村ロードレース大会(1/23→中止)に向けて、それぞれ水泳、短距離走・創作ダンス、長距離走に目標をもたせ、計画的に主体的に取り組ませた。遠泳大会では

<p>3 健やかな体</p>	<p>ック・パラリンピック開催の意義を見つめ、4×4の取組を意図的・計画的に取り入れ、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。また、自己の最善を尽してスポーツをする態度を育てる。</p> <p>④食や性に関する正しい知識等を身に付けるとともに、生徒が必要な情報を自ら収集し、適切な意志決定や行動選択を行い、健全な生活を送るための資質・能力を育成する。</p>	<p>参加生徒全員が1キロメートルを泳ぎ切ることができた。また小中高連合運動会では3年生のリーダーの下、全員で創り上げたダンスを披露することができた。村のロードレースは中止になったが、代替の「12分間走」を当日保健体育の授業の中で実施し、努力の成果を発表する機会をもった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度 オリンピック・パラリンピック教育に関する指導 全体計画」に基づき各教科・道徳・特別活動等において、オリンピック・パラリンピックに関しての話題を取り上げ、指導を行った。10/6には日本サッカー協会主催の「夢の教室」が行われ、元ボブスレー選手の講演をビデオ会議システムで実施し、多くのことを学んだ。 ・養護教諭が中心となり、毎月「食育講話」を実施し、食に関する正しい知識を学ぶ機会とした。そのうち2回は村の保健師や栄養士にゲストティーチャーとしておいいただき、講演を行った。またそれを踏まえて毎月「お弁当の日」を設定し、生徒自身が弁当作りを行う食育を行った。弁当は写真を撮り、「お弁当の日通信」として家庭に配るとともに、校内に掲示し、離島であるがゆえに「食育」が大切であることを意識させた。 ・養護教諭が「ほけんだより」の中で「性に関する正しい知識」を適宜取り上げ、啓発に努めた。また、中学3年生の保健の授業の中で養護教諭が2時間の性教育の授業を受け持ち、正しい性の知識について学ぶ機会とした。 ・11/30に今年度中学校が担当の「地域学校保健委員会」主催の講演会を教員・地域・保護者向けに実施した。講師には小笠原村教育委員会教育長の桐川勲様をお招きし、「多様な性の理解」について講演いただいた。
<p>4 信頼される学校づくり</p>	<p>①学校関係者評価・生徒アンケート等を活用して、積極的に速やかに学校改善を図り、保護者・地域そして生徒から信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②授業や行事を積極的に公開する。また、ホームページやフェイスブック、学校便り、安心安全メール等での広報活動や情報発信を積極的に行う。</p> <p>③保護者会や三者面談を充実させ、生徒の変容を共有するとともに、地域・関係諸機関等と連携し、懇談や協議を通して教育活動の一層の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に実施した学校関係者評価は65家庭すべてから回答を得て、その結果は概要版として「学校だより11月号」に掲載した。正式な結果については3/22の保護者会で配布する。また、「評価報告書」は学校ホームページにアップし、地域・保護者と共有できるようにする。 ・感染症対策に十分注意した上で、計画通り学期に一度、一週間程度の授業公開（1学期：5/17～5/22、2学期：10/25～10/30、3学期：1/25～1/29）を行った。 ・行事については新型コロナ感染症での延期があったが可能な限り公開した。（7/2 遠泳大会、9/26 小中高連合運動会、12/18 総合発表会（3年）、1/25～1/29 作品展示、1/29 総合発表会（1・2年）、2/11 道徳授業地区公開講座、3/10 球技大会、3/12 音楽発表会・三送会）

<p>4 信頼される学校づくり</p>	<p>④地域の機関と連携を密にし、持続可能な社会づくりに向けて取り組む。調査及び知識習得活動（戦跡調査、海洋調査等）やボランティア活動（東平サンクチュアリでの外来種駆除、母島移動教室における海岸清掃等）を継続的にを行い地域貢献の意識を高める。</p> <p>⑤家庭や地域社会との連携を図り、三者が一体となった 道德教育を推進する。週休日や祝祭日に「道德授業地区公開講座」を実施し、生徒の道徳的実践力の高まりを共有する。</p>	<p>・学校から情報発信を定期的に行い、行っている教育活動や保護者に伝えたいことを積極的に発信した。(3/11 現在の発行数・「全」は既に完結)</p> <ul style="list-style-type: none"> （学校だより（全11号） <ul style="list-style-type: none"> 1学年だより「一心同体」（28号） 2学年だより「おが中快晴通信」（36号） 3学年だより「和衷協同」（37号） 学習だより「Break-through（全6号） 食育通信（9号） お弁当の日通信（9号） ほけんだより（10号） <p>また、フェイスブックを積極的に（3/11 現在90回程度）更新し、日常の学校での生徒の様子が保護者・地域等に伝わるようにした。さらに臨時休業や、自然災害の発災時や、緊急に連絡が必要な場合に適宜安心安全メールで連絡を行った。今年度は全家庭にメールを登録していただいているため、情報が一部に行かないという状況が無かった。</p> <p>・通常の保護者会は4/16と10/22に行い、学校の取組や方針について理解いただく機会となった。特に2学期の保護者会では、「SOSの出し方に関する教育」の視聴覚教材を共有し、家庭とともに生徒の生命尊重・自己肯定感の醸成について考えることができた。また、今年度はコロナ禍で、さまざまな旅行的行事や、部活動の遠征等で保護者の意向を確認したり、状況を説明したりするために、臨時の保護者会を開く必要があった。情報を早めに提供し、生徒のために何ができるのかを保護者とともに考える機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> （修学旅行保護者説明会：4/16、9/7、9/13 母島移動教室保護者説明会：7/8、2/10 臨時2年保護者会：3/2 バレーボール部保護者会：4/30、6/18 サッカー部保護者会：4/30、6/1、6/29 バドミントン部保護者会：4/20、6/7、6/21 テニス部保護者会：5/10、7/2 野球部保護者会：6/1 <p>・三者面談は1学期(7/6～15)、2学期(12/2～16)で行った。生徒一人に必ず15分を確保し、日頃の学校での様子や、生徒の良い点を中心に伝えるとともに、家庭での様子を聞いた。3年生はそれに加え、10/25～11/12にも三者面談を実施し、進路に向けた丁寧な聞き取りを行った。</p> <p>・地域の期間と関わる会議としては次のものを実施し、連携を図った。</p> <p>①いじめ対策学校サポートチーム協議会 年3回（6/24、11/29、2/24） 民生・児童委員、小笠原警察署、小笠原村教育委員会、学校関係者、スクールカウンセラー</p>
---------------------	---	---

<p>4 信頼される学校づくり</p>		<p>②地域懇談会（安全に関する分科会）（2/17） 小笠原支庁、小笠原村役場、地域交通安全指導員、 小笠原村教育委員会、学校関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と連携した教育活動 <p>交通安全教室(4/13)小笠原警察署 夜明山戦績調査(5/13、5/14)田中善八氏 AED教員研修(5/26)</p> <p>海上自衛隊父島基地分遣隊 ノロ落とし(5/30)PTA主催ボランティア 東平外来種駆除活動(6/10～11)</p> <p>小笠原諸島森林生態系保全センター 旧島民の話を聞く会(6/17)硫黄島旧島民の会 遠泳大会(7/2)</p> <p>海上自衛隊父島基地分遣隊・海上保安庁 小笠原保安署・小笠原警察署・小笠原診 療所・ダイビングショップ セーフティ教室(7/14)小笠原警察署 理科ゲストティーチャー「南極の氷」(9/8)</p> <p>海上自衛隊父島基地分遣隊長 小中高連合運動会(9/26)小学校・小笠原高等学校 ブイフロート清掃・撤去(10/16)</p> <p>PTA主催ボランティア 食育講話(10/5)島しょ保健所栄養士 保育実習(11/11)父島保育園 職場体験(12/6～8)島内21事業所 食育講話(3/3)小笠原村診療所栄養士 ゲートボール交流会(3/4) 海洋調査(3/7～8)</p> <p>小笠原ホエールウォッチング協会 郷土講座(3/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内地の関係諸機関と連携した教育活動 <p>情報モラル教室(4/26)ファミリーeルール事務局 租税教室(7/12)東京税理士会芝支部 夢の教室(10/6)日本サッカー協会 働く人の話を聞く会(10/30)東京消防庁、通信社、 スポーツショップ、NPO法人 薬物乱用防止授業(11/2)警視庁 ふれあい天文学(2/4・オンライン)国立天文台</p>
---------------------	--	--

*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。